

体育活動中の事故防止に関する調査研究

千葉大学大学院環境生命医学博士課程 増茂誠二

事故は、その原因を捉えた場合、様々な状況の下で発生しているが、児童生徒が体を動かす活動である体育活動は、事故件数からも安全対策の徹底が必要である。体育活動としては、体育の授業と運動部活動が主なものとして挙げられることから、ここに着目して考えることとした。



事例 1	高 1 男	課外指導: 体育的部活動 (剣道) 8 月	死亡
<p>剣道部の活動中、午前 9 時頃から正午頃まで、約 1 時間ごとに 15 分の休憩をとりながら、素振り、切り替えし、面打ち、懸かり稽古などの練習を行った。清掃、後片付けの後、昼食休憩をとり、体育館脇の階段に座った。午後 2 時頃、体育館脇で意識が無く、仰向けに倒れているところを発見された。</p>			
事例 2	小学 5 男	剣道教室での活動 7 月	死亡
<p>剣道教室において面打ち練習をしていた。指導者の合図で「はじめ」をかけた瞬間、床に倒れこんだ。意識はなく痙攣し泡状なものを嘔吐した。指導者は救急車を呼ぶとともに応急処置ができる者を探していた。</p>			
事例 3	6 4 歳男性	剣道同好会での活動 1 月 (北海道)	死亡
<p>市営体育館において剣道同好会による稽古をしていた。蹲踞から立ち上がり、大きな声で気合をかけたところ、相手にもたれかかるかのように倒れこんだ。意識はなく痙攣を起し口をパクパクと動かしていた。AED などは備えてなく、居合わせた者が直ちに胸骨圧迫を施し救急車の到着を待った。</p>			
事例 4	5 7 歳女性	剣道同好会での活動 8 月 (大阪) 急性心筋梗塞	蘇生
<p>剣道合宿中、水分の補給と休憩をとりながら、切り替えし、面打ち、懸かり稽古などの練習を行った。昼食休憩をとり、日本剣道形を始めた直後、木刀を突然落とし床に倒れこんだ。意識はなく、大量の発汗があった。合宿に参加していた看護師と中学教員により胸骨圧迫及び AED を施した。救急車が到着した時は脈が触れ、かすかにうめき声をあげていた。血圧 (87/43)</p>			

男女別にみた事故件数

男女別にみた事故の割合は、男子 83%、女子 17%であり、男女比は約 5 対 1 であった。また、学校種別にみると、男子の割合は、小学校 63%、中学校 78%、高等学校 88%であり、学校種が上になるほど男子の割合が増えている(表 3)。これは前項と同様、男子では体格の発育や運動能力の向上に伴い、受傷に関わる外力の大きさが増加することから大きな要因であると考えられる。

	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	合計
柔道	14	7	3	20	2	4	50
野球	3	6	2	14	7	3	35
バスケットボール	5	7	3	7	8	3	33
ラグビー	1	0	0	5	13	12	31
サッカー	5	2	1	9	3	6	26
陸上競技	3	3	1	6	4	2	19
バレーボール	2	4	1	3	3	1	14
テニス	4	3	1	4	2	0	14
剣道	1	3	2	4	3	0	13
器械体操等	0	1	2	3	5	0	11
水泳	2	3	1	2	2	0	10
ハンドボール	3	1	0	1	3	0	8
ホッケー	0	0	0	3	4	0	7
自転車	0	0	0	2	3	1	6
その他	1	6	2	16	11	5	41
合計	44	46	19	99	73	37	318

表 5-5. 中学校・高等学校での運動部活動における死亡・重度の障害事故

-競技種目別・学年別発生件数-